

まえがき

津山工業高等専門学校は、実践的かつ創造的な技術者を養成する高等教育機関として、昭和 38 年（1963 年）に創設されました。これまでの卒業生は 8,000 人近くに上り、産業界や地域社会の様々な分野で活躍し、高い評価を得ています。本校では、確かな基礎科学を基盤とした高い専門性を身につけるとともに、分野横断的な融合力を備え、複雑・多様化する科学技術に対して具体的な課題の探求と解決策を提示でき、かつ人間や環境に対してグローバルな視点を有する人間性豊かな人材を育成することを目指しています。平成 28（2016）年度に実施した学科改組では、既存の専門分野である機械、電気電子、電子制御、情報工学科に生物・化学を含む基礎科学分野を追加して一つの学科「総合理工学科」へ再編・統合しました。異分野融合力とその基盤となる基礎科学をしっかりと学ぶことのできる学科です。これにより、卒業生の活躍の場がこれまで以上に広がることが期待されます。また、本校の技術者教育プログラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査に合格しており、世界標準を満たしていることが認定されています。

今回の自己点検・評価報告書は、令和元（2019）年度の本校の教育・研究活動をまとめたものです。当該年度は、タイ政府奨学金留学生の 1 年次からの受け入れを開始しました。本校では既に多くの国から留学生を受け入れていますが、低学年から身近で外国人と接することは、異文化理解力やコミュニケーション力の養成につながり、グローバル人材の育成に有効です。また、グローバルエンジニア育成事業（高度育成）に採択され、専門科目を担当する外国籍教員を新たに受け入れました。施設・設備の整備では、実習工場の改修、基盤的設備の更新などを行いました。

本校では「教育システム点検委員会」を設け、自己点検・評価を継続的に行うとともに、外部の第三者からの評価、意見を仰ぐため、津山工業高等専門学校有識者懇話会を設置し、本校の教育研究活動、学生支援・指導、地域連携及び管理運営について助言を得ることで、効率的かつ効果的な学校運営に努めています。今年度からは、自己点検・評価報告書の取りまとめを毎年行うことにしました。

本報告書を活用し本校の教育研究活動の改善・充実を図ることで、教育研究の質の向上につながることを期待します。

令和 2 年 6 月

津山工業高等専門学校長
磯山 武司